

平成 29 年 5 月 9 日参議院予算委員会議事録

○松沢成文君 無所属クラブの松沢成文でございます。

今日、私は、東京五輪大会成功に向けて、幾つか質問をしていきたいと思えます。

まず、総理、総理も大変親しい、また尊敬する方だと思えますが、森喜朗東京五輪の組織委員会会長が、最近「遺書」、副題が「東京五輪への覚悟」という立派な御本を出されました。総理はこの本お読みになられたでしょうか。もし読んでいるとしたら、どんな感想をお持ちになったでしょうか。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 私も拝読いたしました。今日たまたま、森元総理、叙勲されましたので、そこでお目にかかって、その本についてもお話をさせていただき、今日、松沢議員からそれについて質問が出るということもお話をさせていただいたところでございますが、これは森先生が言わば病を得て、その上において自分の人生を顧みる、そして今後の日本を憂いながら書かれた本であろうと、このように思っております。

○松沢成文君 私もこの本拝読させていただきましたが、組織委員会の会長が様々批判を浴びながら御苦労されて一生懸命仕事をしているというのも伝わってきましたけれども、私は驚いたんですけども、かなり他人の悪口がたくさん書いてあって、ちょっと立場をわきまえない暴露本にしか見えなかったんですね。

ちょっと引用させていただきますけれども、例えば J O C の竹田会長についてこう述べています。象徴として座っているだけで何もしない。さらに、自分の判断、意思で J O C を動かしたことがないのではないかと。そして、この人が日本のスポーツ界を代表しておられるのだろうかという疑問に思うと、かなり辛辣な批判ですよ。

それから、猪瀬元東京都知事についてはこう言っています。招致委員会のずさんな計画、これはコンパクト五輪だと思えるんですけども、このずさんな計画は猪瀬元副知事の大罪だ、猪瀬氏が私を攻撃するのは彼自身が組織委員会の会長になれなかった逆恨みではないか。まあすごいですね。しかし、この猪瀬副知事も逆に、元副知事も「東京の敵」という著書を出してまして、この中で森会長のことをめちゃくちゃ批判していますから、この二人はどちらもどっちかなという感じがします。

さて、最後に、小池現東京都知事に対してはこう批判しているんですね。小池さんの一連の会場見直しは大衆受けを狙った選挙公約のつじつま合わせ、オリンピックを道具に使った政治的パフォーマンスと見られても仕方がない、これはオリンピックに対する冒涇ではないか。小池さんの改革を冒涇と言っているんですよ。さらに、小池さんは人と上手に手を組んで政界を渡ってこられた方です、しかし、何をなさろうと御自由だが、オリンピックを政争の道具とすることだけはおやめいただきたい。

総理、こうした発言あるいは記述、どう思われますか。これ、政治家の大先輩として尊敬できますかね。私は、引退後に回想録として出すならまだしも、五輪準備のまとめ役である現職の組織委員会会長が、もう最重要パートナーであるJOC会長や都知事をこのように罵倒してしまったら、これ、準備活動が円滑に進むはずないじゃないですか。良好な信頼関係をつくれるはずがありません。

こうした森会長の著書について、どういう見解をお持ちでしょうか、発言について。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 個人的な思いをつづられたものと承知をしておりますが、言わば私人としてのこれは著書でございますから、総理大臣としてコメントを述べることは差し控えさせていただきたいと思えます。

○松沢成文君 個人的な著書を私は超えていると思うんですね。

JOCの竹田会長というのは組織委員会の副会長ですよ。自分の腹心の副会長に、ほとんどこいつは無能だと言っているわけですよ。さらに、その他のJOCの役員は東京都の副知事などの幹部職員もやっているわけです。要するに、組織委員会の評議員とか副会長とか、こういう人はみんな東京都の方、JOCの方が入っている。そのトップを組織委員会会長がこてんぱんに批判するわけだから、その組織出身の方がやる気にならないと思えますよね、仕事を。

それで、このように組織内の役員人事やその出身母体のトップを堂々と批判することで五輪事業が円滑に適切に行われなくなるとすれば、森会長の行為は、これ民法における忠実義務違反や一般法人法のガバナンスに関する違法行為に当たる可能性すら私は否定できないというふうに思っています。極めてこれは公的なことですよ。だって、公益財団法人の長が自分たちの仲間を批判しまくるわけですから。総理、どうですか。公的なものじゃないですか。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） これは御承知のように、大会組織委員会の会長は、これは理事会の決議によって選定されるものでありまして、私にはこの人事権はないのは御承知のとおりだろうと思えます。

東京大会まであと三年でありまして、森会長には健康状態にも配慮をいただきながら東京大会の成功に向けて引き続きその手腕を発揮していただけるものと考えておりますが、いずれにせよ、大会の成功のためには国、大会組織委員会、そして東京都及び競技会場が所在する地方公共団体が一体となって取り組むことが不可欠であります。アスリートが最高のパフォーマンスを発揮し、全世界に向けて夢と感動そして平和を発信できる世界一の大会の実現に向けて、まさにチーム・ジャパン、関係者が一丸となって協力をしていく、そういう体制の下、成功に向けて頑張っていきたいと、こう考えているところでございます。

○松沢成文君 チーム・ジャパンをつくって成功に向けてみんなで努力していきたいと。そ

の調整役のトップが周りのリーダーの悪口言いまくるわけでしょう。これはうまくいくはずがないじゃないですか。

それで、さらに森会長は著書の中でこう言っているんです。私は肺がんを患っており、東京五輪の開会式までもたない。もう正々堂々と言っちゃっているんですよ。私、松沢は、がんを患った方が職場などで活躍できる社会は目指さなければいけないと思います。しかし、事は東京オリンピックのトップリーダー、これは極めて公的ですよ。大会を完結できない、要するに開会式はもう出れないんだと宣言している人が組織委員会の会長を務めるべきではありません。

会長の責務というのは準備を万端に整えて、大会を実施して、成功に導くことですよ。これをやり切れる人が会長を務めるべきですよ。私は、森会長はスポーツ界の重鎮として大変立派な方だとは思いますが、ただ、総理、ここは危機管理の面からも、大会を全うできないと宣言している方は、御本人のためにも体のことがあるなら早期に御勇退をいただいて、大会を全うできる気力あふれる後任を抜てきすべきだと思います。いかがでしょうか。

○内閣総理大臣(安倍晋三君) 先ほども申し上げましたように、大会組織委員会の会長は、これは理事会で決まるわけでごさいます、私には人事権がないわけでごさいますのでコメントは差し控えさせていただきたいと、このように思いますが、森会長御自身は、今日お目にかかったところ大変お元気そうでございましたから、健康に留意していただき、是非大会を成功に導いていただきたいと、このように考えております。

○松沢成文君 組織委員会の定款でも、理事の解任事由として、心身の故障のため、職務の執行に支障があり、また、これに堪えられないときというふうに定められておりまして、体が本当に具合悪いというのは理事解任の理由になるんです。この理事を選任する権限は調整会議にあります。調整会議のメンバーには文科大臣と担当大臣が入っていますから、安倍内閣の意見としてやっぱり会長の人事は問題あるんじゃないかと問題提起することできるんです。組織的にもできるんですね。

それから、御本人は、安倍総理はどこまで意識しているか分かりませんが、安倍総理は組織委員会の顧問会議の最高顧問で、議長なんです。この顧問会議は組織委員会の運営やオリンピック準備がうまく進むように大所高所からアドバイスする権限を持っているんです。だから、あなたに権限があるんです。もし森会長に対して様々そういう、他人の御批判をするとか、あるいは体調が悪いといった場合、森会長、このままじゃまずいんじゃないでしょうかと、それを説得するのは、できるのは、私は安倍総理しかいないと思いますよ。

このことについて是非とも東京都の小池知事と国のトップである総理、一度相談してください。組織委員会をきちっと機能させない限り、またいろんなトラブルが起きますよ。御本人が開会式まで俺はやれないと言っている人に、なぜ準備をさせるんですか。私はこれは危

機管理の問題だと思いますから、総理の見解を求めます。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 先ほど申し上げましたように、健康状態については、今日お目にかかった感じではこれはお元気だなど、こう思いました。ただ、著書の中においては自分のある意味真情を吐露されたんだらうと、こう思うわけですが、この真意についてはお伺いを試みなければならないところでございますが、いずれにせよ、これは理事会での決議で決めていくことであろうと思えます。確かに私も顧問でございますから、今名前を出された方々とも円満にいくべく私は努力をしていきたいと、こう思っているところでございます。

森先生というのは、割とそういうお小言をよく言われる方。ずっと長いお付き合いであります。もう山本委員長もそういう意味では相当厳しい指導を受けられたこともあるんですが、かといって、それは善意からくるところが大体でございまして、そういう中において様々な発言をされたのだらうと。しかし、それについて更にコメントすることは差し控えさせていただきたいと、こう思いますが。

いずれにせよ、オリンピック・パラリンピックを成功をさせるためにチーム・ジャパニールとなって進んでいけるように、もちろん小池知事とも協力していきたいと、こう考えている、もちろん竹田さんもそうですが、協力していきたいと考えているところでございます。

○松沢成文君 最後に、オリンピック成功に向けて受動喫煙防止対策、たばこの問題をお聞きしますけれども。

厚労大臣が厚労省の原案を出しました。これに対して、自民党のたばこ議連の皆さんから不満が噴出したわけですね。厚労大臣、でも、しっかりした認識持っています。やっぱり受動喫煙防止対策の効果をきちっと上げるというのは、これはもうオリンピックをやるために、IOCとWHOがたばこフリーオリンピックをするんだと、その目的に沿ってしっかり東京やろうと。

そして、昨日、政調会長や自民党のたばこの関係者の皆さんが集まって議論したそうですが、その議論によると、もう小さな店舗は例外でいいや、職場も例外でいいやと。とにかく、オリンピックの方針は完全な室内受動喫煙防止、禁煙原則なんです。もうここも分煙でいいや、ここは喫煙認めちゃおうやと、どんどんどん穴を認めて譲っちゃっているんですね。

さあ、総理は今国会の施政方針演説で、オリンピックに向けて受動喫煙防止対策の徹底を図ると言っているんですよ。徹底どころか、ずるずるずるずる穴だらけの法律になっていっちゃっているんですね。これじゃ全く国際公約を果たせません。

WHOのマーガレット・チャンの下の事務局次長さんが来て、マーガレット・チャン事務総長の親書を持ってきたんです。日本、オリンピック近いですね、この議論、紛糾している

そうですが、きちっとやってください、WHOは全面的に応援していきまうと言っているんですが、それが全くその方向になっていないんですよ。飲食店の例外をどんどんどんどんつくっていく、職場も例外にするというわけですから。

さあ、総理、これは私たち日本の国際公約だと思いますし、本当にしっかりと受動喫煙のない健康な社会をつくっていくために、私は日本は大きな岐路を迎えていると思います。さあ、総理、今国会中にやらないとラグビーのワールドカップに間に合いません。どういう形でこの国会、自民党の議論をまとめて法案を提出し、成立させるのか、総理の考え方、決意をお聞かせください。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 受動喫煙対策の徹底は重要であり、引き続き与党と厚生労働省において精力的な議論を進め、できるだけ速やかに皆さんがしっかりと守っていただけるような実効性のある成案を得るよう努力をしてまいりたいと、このように思います。

○松沢成文君 今国会中に提案をし、成立を図るということによろしいんですね。再度お伺いします。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 今申し上げましたように、できるだけ早く成案を得るよう努力をしてまいりたいと思います。

○委員長（山本一太君） 時間です。

○松沢成文君 はい。

時間が来ましたので、以上です。ありがとうございました。